

琵琶湖部会ダム班論点（案） 2003.7.9 寺川庄蔵

<全般>

- ・ 原案（第1、第2稿）は、河川法改正とそれに基づく委員会提言に照らしてどうか。
- ・ 琵琶湖総合開発特別措置法と改正河川法との関係をどのように理解するか。

<検討・判断のプロセスについて>

- ・ 代替案は適切で十分検討されたといえるか、また、他に代替案はないか
- ・ 安易にダム建設が有効との結論は出せない。
- ・ 丹生ダムは流域全体で議論が必要。
- ・ 「見直し案」では、流域全体に関する視点が希薄。
- ・ 治水技術と水需要（地元の利水分、下流利水精査後の需要量）のテーマ別部会の結論が出ていない状況でどこまで検討できるか。
- ・ 結論に至るまでに十分な科学的検討が行われたかどうか疑問。
- ・ 「住民の同意が得られない」という根拠が希薄。
- ・ 「住民の同意が得られない」は、言い切れるか。
- ・ 費用対効果。

<丹生ダムの目的・必要性について>

- ・ 「環境・生態系」を保全目的に含める。
- ・ ダム建設の目的変更を、どのように評価し、意見を出すか。
- ・ 新たな目的は、未調査・未解明で検討に値するか。
- ・ 従前は、利水が丹生ダムの主要な建設目的。

<琵琶湖における急速な水位低下が生態系に及ぼす影響と丹生ダムの有効性について>

- ・ 水位低下と漁獲量減少の因果関係とダムによる改善は実態に即したもののか。
- ・ ダムによる水補給で琵琶湖の環境改善ができるのか。
- ・ 水位変動はきわめて人為的であり、解決はそれを元に戻せばよく、ダムに頼るのはおかしい。
- ・ ダムからの水供給は、著しい水位低下の頻発化を緩和し、生態系に与える影響をある程度緩和する。
- ・ 琵琶湖の水位低下を抑制し、環境改善に役立てるという建設理由は根拠が薄弱。
- ・ ダム建設以前に、人為的操作の見直しが必要。

<姉川・高時川の河川環境の保全・再生と丹生ダムの有効性について>

- ・ 瀬切れは自然の振幅の中。

- ・ 掘削や引提の促進で瀬切れは解決できる。
- ・ ダムの必要性で瀬切れがあげられているが、妥当か。

< 姉川・高時川の治水に対する丹生ダムの有効性について >

- ・ 洪水ポテンシャルは本当に大きいのか。
- ・ 破提を回避し、洪水を許容する治水計画の策定が必要。
- ・ 破提の危険箇所も示さず、堤防強化策が検討されていない。

< 今後、調査・検討しなければならない事項について >

琵琶湖の水位低下抑制のための丹生ダムからの補給による効果と、その自然環境に及ぼす影響について、さらに詳細な調査検討
貯水池規模の見直し並びに貯水池運用の変更に伴う環境等の諸調査
土砂移動の連続性を確保する方策の検討

a . 環境への影響について

- ・ ダム建設によるマイナス影響の評価を。
- ・ ダムの環境負荷をどのように評価するか。
- ・ ダム上流の自然環境保全と流入河川の水質対策
- ・ 丹生ダムの水質予測と、河川と琵琶湖に与える影響は十分検討されたものか。
- ・ 雪解け水が、深水層に潜り込む現象がわかっているが、ダムで流入しなくなる可能性があるが未解明。
- ・ 姉川の融雪出水と溶存酸素変化について、追加調査とデータの蓄積が必要。

b . 軽減策について

- ・ 自然環境への影響・改善策が示されていない。
- ・ イヌワシ・クマタカの生息圏。
- ・ 選択取水の構造と実効性は期待できるか
- ・ 土砂移動。

利水について、早急な水需要の精査確認

- ・ 渇水に対する安全度とは、
- ・ ダム群の再編成という意味と可能性は、
- ・ 農業用水の水需要の実態把握。
- ・ 水需要の精査・確認
- ・ 利水規模をそのまま検討の前提にするのは無理がある。

< 社会的な影響 >

- ・ ダム水源地の活性化
- ・ 住民意見の反映不十分。